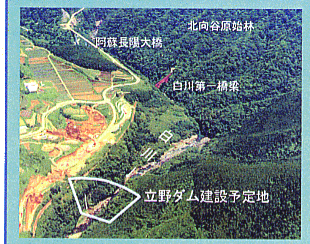
上流域から中流域の整備計画（原案）

あなたの「手」で

新しい白川をつくります。

立野ダム



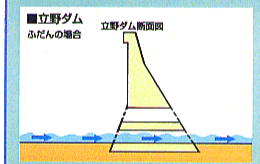
立野ダムは白川沿川流域の洪水による被害の防除を目的とした治水専用ダムです。

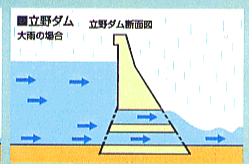
立野ダムの湛水域は天然記念物である「北向谷原始林」に隣接し、豊かな自然環境に恵まれています。

立野ダム建設事業では、この豊かな自然環境に与える影響をできる限り回避、低減するため、様々な保全対策を実施しています。

■立野ダムの特徴

立野ダムの大きな特徴は、ダムの堤体に3つの穴（常用洪水吐き）が開いていることです。雨の降らない通常時には、水を貯めずに流れ込んだ水をその穴からそのまま下流へ流すことから、現況河川と変わらない環境にやさしい構造となっています。洪水時には一気に下流へ流れ出ようとする洪水を一時的にせき止め3つの穴から下流へ流します。また、水が貯まる状態は十数時間程度であり、北向谷原始林等の環境に与える影響は少ないと考えています。





住民の声 白川～黒川上流まで片側だけでも舗装にして、雑草の清掃等整備をしていつ水害が起きても対応できるようにしてほしい。今後私達も少しでも環境保全のために草刈り等協力していきたいと思う。

住民の声 一の宮坂梨地区国道57号線以北から、小嶽山辺りまでの、黒河畔サイクリングロードの完成を望む。

住民の声 80名で花原川を守る会をしており、水生昆虫、魚類、鳥類の調査をしている。子供達のために生物案内の看板を作っている。

住民の声 阿蘇谷の田が減反などで荒れると下流域の水害も出るし、下の地の地下水が減り、水質も悪くなり魚も住めなくなると思う。

住民の声 阿蘇町小倉には氾濫箇所が一ケ所ある。左岸の堤防が全然なかったり、また途切れている場所もある。早急の改善が望ましい。できれば遊水公園を作ってほしい。地権者も望んでいる。

住民の声 千石橋から折戸橋までに堰を作って水面を創出し、観光面に寄与するようにしてほしい。

住民の声 黒川源流の一の宮町の町内の河川の汚さは目にあまるものがある。それが全部白川に流れているのだから、源流から美しくすることが第一である。

住民の声 年々、河川の工法も変わっているようだが、現在車返橋（下）、鈴ケ瀬山之内橋（上）の工法・景観も大変よくできており、田園空間地帯に桜並木、遊歩道を希望する。

住民の声 水を汚しているのは農家の人だと思う。残菜を捨てている。家畜が少なくなったので水質が良くなったのでは?一の宮町は下水道整備率が低いが湧水で薄められてさえいに見える。多自然型川づくりは町内の小さな川にも適用できるのか?

住民の声 中松の五条橋下流の河川敷（旧河川）を公園にできないか。

住民の声 白川はイメージしていた清流ではなかった。自転車で南郷谷を走るが上流も中流も変わらない。流域住居からの生活排水だと思う。早く対応していかないとこの美しい景観がかわいそう。

住民の声 現在の南阿蘇岳の景色は素晴しいものがあるが、河の畔に近づけない場所が殆どで、高森～栃木間の散策道路数カ所の公園、芝生、あずま屋を整備して、もっと親しみやすい白川にしたいものである。

住民の声 白川源流に居住しているが、日頃考えていることは、河川の両岸および河川敷が荒廃しているので年に一度でも潅木の伐採や雑草の草刈り等、何か管理者や町村行政で実施してほしい。

住民の声 魚釣りが好きでよく川に行くが、川におりられない。現在でも降り口は相当数あるが、管理用で子供達には使いにくい。子供が白川で遊ぶには川が危なくていかせられない。

住民の声 白水村では平成元年頃より圃場整備が行われている。このため小川はコンクリートにより排水路化され、小魚、水生昆虫が全く住めなくなっている。また旧河川は圃場整備に取り込まれている。ぜひそのまま残してほしい、河川環境、環境と叫ばれているが、なんら配慮がなされていない。

住民の声 現在高森町はポンプによる飲料水で高森トンネルができる前までは、町内の川には魚、貝類がおり、学校の授業より川遊び、ボートのり等に親しんでいた。今の高森には川がなくなった。もとに戻してほしい。

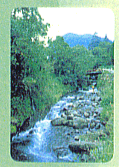
■黒川遊水地群

平成2年7月（1990.7.2）と同程度の洪水に対して阿蘇町と一の宮町において家屋の浸水被害が発生しないことを目的に流出抑制効果がある遊水地群の整備を進めることとします。また、平常時には川とのふれあい、体験学習の場として、水辺公園・多目的広場などの整備を行います。

なお、実施主体、場所については、地域住民や自治体の協力が必要不可欠であるため、地域住民や自治体等と調整を図っていきます。

内牧遊水地

小野遊水地（建設中）


宮川渓谷

阿蘇米塚

長陽大橋

数鹿流ヶ滝

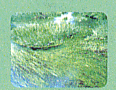
阿蘇大橋

阿蘇山

鮎返りの滝

立野ダム

塩井社水源


竹崎水源

白川水源

白川水源

住民の声 昔は川で遊んで砂や砂利をとっていたが、今は護岸ができて川に近づけない。

住民の声 休憩の場として、河川公園のモデルとなるようなところを作ってほしい。

九州自動車道付近

■瀬田堰

加藤清正が築いた石造取水堰。ここから菊陽町にいたる延長16kmの水路の開削を行った。

住民の声 団地の汚水排水の問題について対策はあるのか。

東バイパス弓削大橋

住民の声 大津区間の白川沿いは河川に親しむような場所がない。河川工事で水防には良くなったと思うが、周囲の景色と溶け込むような昔の自然とは違ってきている。今風に憩いの場的な水の公園を作ってほしい。

住民の声 今年の夏に近くの子どもを連れてメダカすくいに出かけたが一匹も取れなかった。場所が吉原橋の上流だった。私は55歳だが昔のことが懐かしく思われる。やはりメダカのいる川にしてほしい。

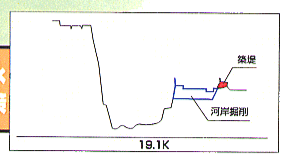
■鼻ぐり井手

白川に含まれるヨナの堆積を防ぐため、加藤清正が考案した堆積防止工法。交互に並ぶ岩盤のアーチが水流を起こし、常に渦を巻き撹拌して水路に土砂が堆積することなくスムーズに流れるようになっています。

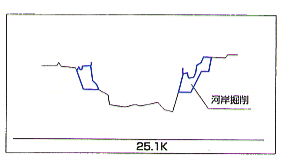
■馬場楠堰

馬場楠堰から鼻ぐり井手通り。白川の水は今も左岸台地を潤しています。

治水対策



目標とする洪水流量を安全に流すために河岸の掘削を行います。また、堤防が低い一部の区間では、築堤を行います。



目標とする洪水流量を安全に流すために河岸の掘削を行います。

築堤　河岸掘削　湖と沼の保全　水辺づくりの空間　スロープ　階段　堤防路